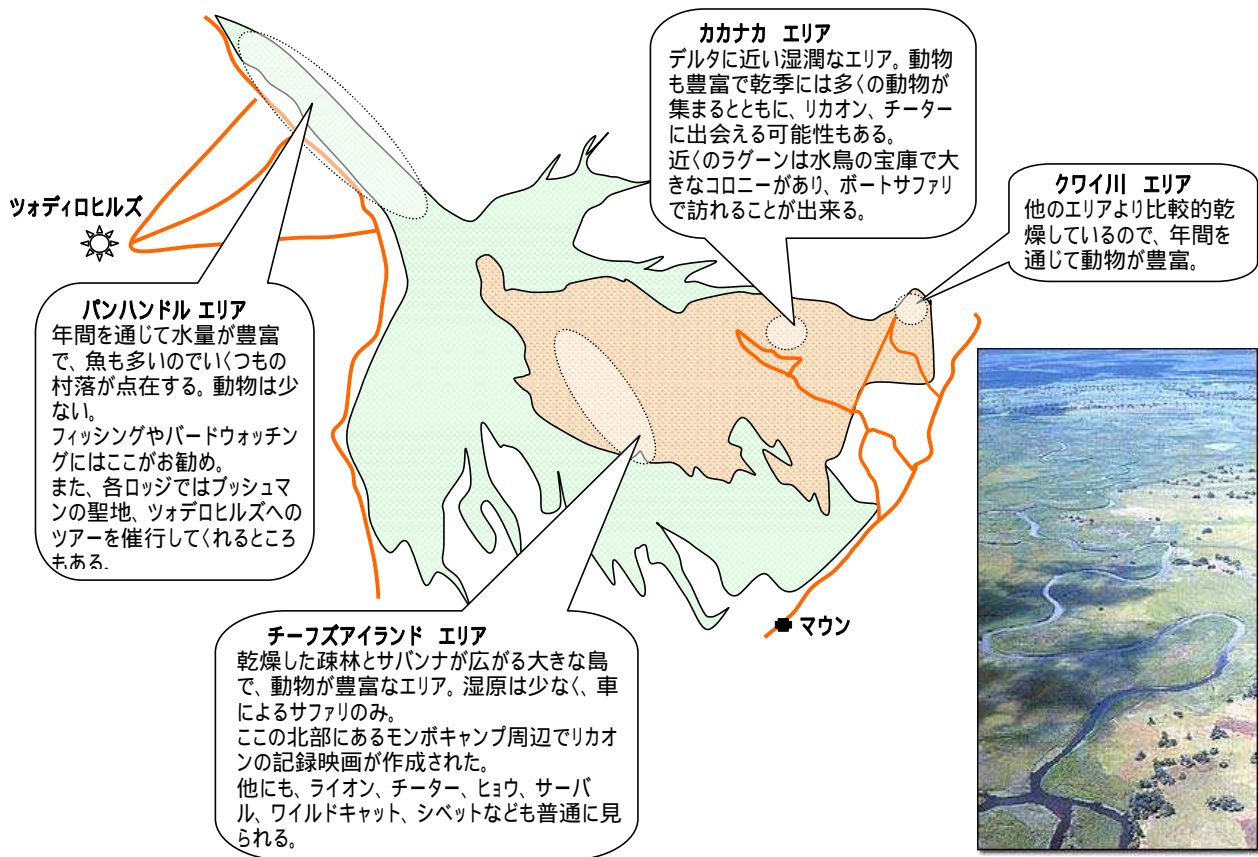


オカバンゴ湿地帯・モレミ野生動物保護区



オカバンゴ湿地帯は、世界最大の内陸デルタと言われている。湿地帯の水はカラハリ砂漠に流れ込み、乾いた大地と湿った大地が出会い、息を飲むようなコントラストを作り出し、「カラハリの宝石」と呼ばれている。

また、オカバンゴ湿地帯の約3分の1がモレミ野生動物保護区とされている。ここでは、多種類の野生動物が見られ、ゾウもたくさんいる。バッファロー、キリン、ライオン、ヒョウ、チーター、ハイエナ、ジャッカル、リカオン、アンテロープ類、水鳥などが住んでいる。

湿地帯でのサファリは、モコロという丸木船を使う。睡蓮やパピルスの繁る湿原の水面を静かに音も立てずに軽やかに進む感触は他ではなかなか味わえないだろう。ただし、カバやワニのいるところでは危険なので行かない。

オカバンゴ湿地帯の西に位置するツォデロ・ヒルズは、2001年に世界遺産に指定された。ツォデロ・ヒルズは、そこに暮らす部族にとって「聖なる地」。また、動物・幾何学模様・人間などを描いた、先史時代の岩壁画がおよそ400点見つかっており、研究者の興味を引くとともに旅行者にも人気の場所となりつつある。

